

資料②湖西市国保・後期高齢者入院レセプト集計 (2018-2022年度)

- 新生物<腫瘍> ……主に浜松市内の急性期病院へ
- 精神および行動の障害…精神科病院はすべて市外
- 認知症…主に愛知県方面へ
- 循環器系疾患…当院に実績あり
- 脳血管疾患…回復・慢性期が愛知県方面に流出
- 呼吸器疾患…市内両病院である程度完結
- 骨折…主に浜名病院に集中

入院レセプト集計結果を踏まえて

- がん（新生物＜腫瘍＞）

⇒がん治療の場合、急性期の治療は、ロボット手術を含む鏡視下手術、放射線治療、化学療法などを集学的に実施できる医療機関に集約されるのは健全な状態と考える。

- 循環器系の疾患

⇒当院の強みであり、実績も伴っている。

- 脳血管疾患

⇒主に回復・慢性期の患者が豊橋市方面へ。

⇒リハビリ機能の充実を図り、市内での完結に近づける。

- 呼吸器系の疾患

⇒ある程度市内で吸収できている。

- 骨折

⇒浜名病院に集中している。

⇒当院も医師が、ほぼ2名体制となり、僅かずつ増加している。

- 精神および行動の障害

⇒市外に流出しているが、精神科病院の市内への設置を望む声は聞かれない。

地域包括ケア病床の病棟化について

- 回復期機能を拡充することで、当院の入院患者が増加するとともに、市内で完結する医療も増加し、市民の要望に応えることに繋がる。
- 前回の策定委員会後、各行政機関への相談を踏まえ、院内運用の準備が進んでいる。
- 地域包括ケア病棟の稼働状況により、休止病床の再開を検討する。

※各病棟60床まで拡大することができる。

